

照葉樹林文化研究会沿革（2021年4月現在）

照葉樹林文化研究会は、1994年12月に国立民族学博物館館長の梅棹忠夫氏をお招きして開催された公開講演会「中尾佐助と照葉樹林文化論」と中尾佐助コレクション展「照葉樹林文化論の原風景」を受けて1995年3月に大阪府立大学照葉樹林文化研究会として設立された。

第1期

1996年3月には『中尾佐助著述集編』を大阪府立大学総合情報センターと共編してとりまとめた。1997年3月には『中尾佐助文献・資料総目：照葉樹林文化論の源流』（大阪府立大学総合情報センター編）の出版に協力した。

1996年～1998年には日本生命財団より研究助成を受け、現地調査と研究会・シンポジウムを実施した。

1999年4月には、総合情報センターと協力して「中尾佐助スライドDB」のテスト版（ブータン1958探検）をホームページに立ち上げ、2000年4月にはその検索システムを公開した。

2001年には日本生命財団より出版助成を受け、1994年からの研究成果を金子・山口編『照葉樹林文化論の現代的展開』（北海道大学図書刊行会）として公刊した。

2002年から『中尾佐助著作集』の編集を開始し、2004年12月から2006年2月にかけて『中尾佐助著作集』（中尾佐助著；金子務・平木康平・保田淑郎・山口裕文編）全6巻を北海道大学図書刊行会・札幌より出版した。

第2期

2005年（平成17年）12月には規約を制定し、全国規模の団体として「照葉樹林文化研究会」を組織した。

2006年～2009年3月には花博協会より助成を受け「中尾佐助植物探検資料のデータベース化による活用研究」を実施した。2006年5月21日開催の「中尾佐助著作集完成記念講演会」では招待講演と研究発表を行い、11月4日には公開研究発表会を開催した。2007年5月24日には『中尾佐助著作集全6巻』を常陸宮殿下へ献上した。2007年には中尾佐助コレクションのうち、探検スライドのすべて（中尾撮影22,171コマ、同行者撮影スライド300コマ、大阪府立大学東ネパール探検隊撮影562コマ）を電子化し、保存用デジタルファイルを作成するとともに、中尾撮影のスライドを対象として一般公開用のトリミング・ファイルを作成し、画像検索のための検索語を一コマごとに貼り付け、データベース化した。2008年には研究コメントを画像ごとに書き込めるシステム「研究者用ポータル」を構築し、既公開のブータン探検スライドの改良版1,280コマと併せてスライドDBをウェブ上に公開した。

2007年の研究集会の発表の記録などを示した「照葉樹林文化研究会ニュースレター」を2008年から年1回～3回発行し、ホームページ<http://www7b.biglobe.ne.jp/~shouyou/>で一般公開した。現在は、<http://www7b.biglobe.ne.jp/~jurin/>のウェブサイト。

2010年には2009年度住友財団環境研究助成による「ブータンの近代化にともなう住環

境における人間・植物関係の変遷に関する研究」を実施し、会員 2 名を現地に派遣し、庭園植物を調査し、中尾撮影の画像と比較し、変遷を考察した。

2011～2012 年度にはサントリー文化財団より助成を受け、「照葉樹林文化要素としての癒し植物に関わる文化多様性をめぐる研究」を実施し、五島市と新上五島町、島原・天草のキリシタン教会と教会墓地でフィールド調査を実施し、巨樹の精神文化に関する調査と供花に使われる照葉樹に関する調査を実施した。これらの植物文化を中国や西洋の文化やアイヌ文化と比較し、植物の文化多様性を考察した。助成研究の成果の一部は山口裕文（編）『栽培植物の自然史Ⅱ：東アジア原産有用植物と照葉樹林帯の民族文化』（北海道大学出版会、2013 年 10 月刊）で公表するとともに、主要部は山口裕文・金子務・大形徹・大野朋子（編著）『「中尾佐助照葉樹林文化論」の展開：多角的視座からの位置づけ』（北海道大学出版会・札幌 2016.6 出版）で公開した。

中尾著作の再版への協力 2011 年 9 月『秘境ブータン』の文庫本（岩波書店）、2011 年 12 月『ブータンの花（新版）』（北海道大学出版会）、2012 年『料理の起源』（吉川弘文館）の出版に画像や原稿資料の検証を行った。

2018 年 11 月下旬に「中尾佐助ブータン探検 1858 の英文解説書と動画 CD」をブータン国王へ贈呈した。

ニュースレターの最新号は「第 18 号 照葉樹林文化研究会 2020 in Zoom」である。

第 3 期

研究会規約を 2020 年（令和 2 年）11 月 16 日に改定し（令和 3 年 1 月 1 日施行）、会費制の研究会となった。

以上